



今年の教区の目標

交わり深め 力あわせ 救いのおとずれ広げよう

〒902-0067 那覇市安里3-7-2 カトリック那覇教区本部 TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474 発行人 W.F.バーント司教 1部40円 http://www.naha.catholic.jp/

(1) 2022年9月1日 (毎月1日発行)

カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第766号 (9月号)

「主は驚くべき御業を記念するよう定められた」 (詩編111)

今日は、カトリック教会が琉球列島に戻ってきた歴史上記念すべき日!

琉球列島福音宣教再開 75 周年

父の沖縄到着に始まりま ス・レイ司教とオーバン神 はなく、一九四七年九月五 史は、それほど古いもので ある「カトリック・ミッショ 日にカプチン会のフェリク ン琉球列島」の戦後の宣教 それは、 全てを治める

当時の日記)。 で特記すべき一日でした」 ニュースを掲載、 列島に戻ってきた!という に着陸しました・・・今日 金)、 (オーバン神父の沖縄到着 時十五分)に那覇飛行場 カトリック教会が琉球 一時十五分(沖縄時間 九 わたしたちはグアム 四四 七年九月五 赤文字 日

である。

と化した奄美の

福音宣教再開七十五周年を 月が流れ、那覇教区は今月、 今日の那覇教区の前身で あの日から七十五年の歳 再興に若い外国の宣教師た かつての奄美と沖縄の教会 書を編集して出版すべく、 師たちが残した手紙や報告 の節目の年に、何とか宣教 再開七十五周年にあたるこ にして働き続けたのです。 た」(マカバイ記四:38)。 内部を修復し、中庭を清め しく胸を打ち・・・神殿 屋を見て、衣服を裂き、激 二人の宣教師は来琉当初か わたしは、琉球列島宣教 昼夜をわかたず身を粉

迎えます。

前カトリック那覇教区長 ベラルド押川壽夫名誉司教 0) 中で 中で 先の戦争 展開 働 かれる摂 してきま

理

この貴重な歴史資料を翻訳

して残すことにしました。

時間の制約上、完全な形

ものだと実感し、 へ書き送っています。それ 迫害と戦火により廃墟 書のマカバイ記その れた彼らは、 る琉球列島に派遣さ 未だ至るところに 管区本部 旧約聖 写真ページを除く本文全 ました として出版することができ ン〜宣教師たちの便り〜」 トリック琉球列島ミッショ ようやく「実録宣教史・カ とは言えませんが、ここに

(レターサイズ版、

た中庭、崩れ落ちた祭司部 どう」を目にした時のこと いは山の中のように草むし 焼け落ちた門、雑木林ある た聖所を見、汚された祭壇、 「彼らは荒れ果て 「レンガみ 断している様々な宗派につ えていて、 プロテスタントは宗派を超 でした。一方、プロテスタ 数で、散らばっている状況 縄のカトリック信徒は極少 オー めつつありました。しかし、 て、活動の本拠を沖縄に置 五八五ページ)。 ントは盛んに活動範囲を広 いて活動を始めた頃は、 レイ司教が奄美地区 バン神父に担当を委ね キリスト教を分 沖

めに琉球にやって来たと、 えの基で福音宣教を行うた 皇庁から正式に派遣され リック宣教師は、 場を明らかにします。 いて言及していませんでし た。レイ司教は、自らの立 使徒継承の普遍的な教 ローマ教 カト されています。 分散され、 ンを利用しています。 しかし、

送付し、 教師 位と、 す。プロテスタントに遅 政府の民政部司令官宛てに 作成します。 つの質問状を記した手紙を 沖縄本島での奮闘が始まり をとりながら、 活動の公式な許可をとりま て、 責任者であると宣 カトリック宣教師 の任務についての、 軍政府の目に映る宣 琉球列島での宣教 その文書を軍 レイ司教 言 九

ています。彼らは原住民 す。「沖縄ではプロテスタ プロテスタントのチャプレ を行っており、そのために 間で恐ろしいキャンペーン ントが私たちに先手を打っ 縄の実情が記されていま ル神父の報告書でも、 ローマ教皇庁へのガブリ

り直さなければなりませ トリック教徒の核はすべて によって那覇で形成したカ も何かしたいと思っていま カトリックのチャプレ しかし、六年間の活動 町は完全に破壊 ゼロからや 早急に

行動しなければ、

いカトリック・ミッション 明確に説明します。 レイ司教は、自らを新し

(二ページへ続く)

ちの人知れぬ労苦に、 と感動を新たにしながら、

神さまのあらゆる出来ごと

プ ることになるでしょう」 あるレイ司教さまが天国 現実のものとなります。 極度の貧困など、さまざま 記念行事の真の意味です。 ればなり を遣わしてくれるよう、 琉球の宣教活動に合流しま 困難 口 九四六年、 七十五周年を迎えた今 琉球の土となった「祈 那覇教区誕生へと夢は 真剣に絶えず祈らなけ ションの基礎を築き、 初期の宣教師たちは、 後も若い宣教師たちが 人・琉球宣教の父」で 川 テスタント 一誕生を見ることになる。 ておられるでし のために を乗り越えて琉球 ·ません。 アグネラス、 ガブリエ 那

GRACIAS

Despite the fear of a typhoon in the area, the bright voices of children echoed along the beach for the 53rd Annual Summer Camp. Finally, after three years of wait due to the pandemic, by the grace of God and because of your prayers the children and youth were able to have two beautiful days of memorable experience.

Indeed, this year's summer camp was a very meaningful one. The children had participated with great expectations and with a joyful attitude and they were not disappointed. With the enthusiasm of many people that were involved, it was certainly a successful venture. I believe, this was a great and successful way to deepen the relationships between parishes that haven't had as much interaction with each other in recent past.

With the help of so many people that were involved in this year's Summer Camp, I feel that it goes beautifully well with this year's theme of showing respect and love towards family. Our Bishop and Fr. Maxim gave very spiritual, kind, and heartfelt talks which truly showed their love for children. It was an added blessing to each one of us and left a lasting impression on the children's hearts.

The summer camp would have been impossible without the help of many including our Bishop, Priests, the Sisters, the Helpers who warmly looked after the kids, the Beach Staff who drove the children on the banana boat, and the Volunteers who helped in accompanying the kids to and from the camp. Most of all, I would like to thank the Women's Group for cooking delicious food in the kitchen, from preparation to cleaning-up. I am grateful for the support and cooperation of all the people, both materially and spiritually, in providing smooth transitions between various activities including swimming in the ocean, serving delicious food and finishing the day with a beautiful mass.

I truly thank God that the Summer Camp ended in such an unforgettable and meaningful way. Thank you all and I am looking forward to our next Summer Camp adventure! We seek your continued guidance, support, and encouragement as we want to make events like these run as efficiently as possible. Thank you again for your support.



Fr. Naveen Children and Youth Director Catholic Diocese of Naha, Okinawa Japan



[の中のリーダーたちをご覧に



・ザ シム 神父

小禄教会 主任司祭

分勝手に下心を

にしないで、自 人々のことを気

のでしょうか。 こを見ればよい もってリーダー になる人々もい が私たちの模 としたリー 我々はど

めればわかると エス様に目を止 **ダーなのか。イ**

ました。このテーマの目的は、宣 なのですが、 でこのテーマを選びました。 別の ころでリーダーとして見られてい です。学校や、 れているのではないかということ みると深い意味があるように思い **人きな影響を与える、という前提 社目したいと思います。普段はこ** らに磨いて与えられた使命を果 ことして見られているということ についてよく聞いているテーマ れていると思いますが、それを い方をするならば、私たちはプ 師はリーダーになるために呼ば 修道会の立場からこのテーマを す。我々はいろいろな賜物に恵 今回はリーダーシップについて 私たちの言動は周りの人々に キリスト教的、しか 教会や、様々なと

模範となるリーダーです。 思いますが、 様は完全に違うレベルのリーダー リーダーはイエス様です。 イエス様は私たちの イエス 理想の

架にかけられた場面を思い出して たのです。 どうして声が震えたのでしょうか 信者さんの声が震え始めたので、 が行われました。その時、一人の 感動しました。」そのように答え と尋ねたところ「イエス様が十字 今年の四旬節に十字架の道行き 十字架を背負って苦し

> を思いめぐらしていたのと同じよ の内に歩んでいくことです。イエ が、キリストの姿を見ながら祈り 我々の旅もつらいかもしれません なかったのです。リーダーとして 遂げるまで休むのをご自分で許せ にこの世に来られて、それを成し くても続けていけると思います。 的がはっきりしたら、たとえ難し わけで私たちの旅も時々難しくて の世を訪れた目的です。 して和解させるのはキリストがこ ます。人類を救い、神様の子供と 行動をとったことになってしまい ら、この地上に来た目的に反する もしイエス様がそうされていた こともできたかもしれませんが、 理ですとか、やめますとかと言う ます。途中で、 リーダーの特徴ではないかと思い に前へ進んでいく、それこそ良い はつらかったものの、 みを味わいながらも、 ス様は心の中にずっと人類のこと イエス様は神のみ旨を果たすため つらいかもしれません。しかし目 いたそうです。ご自分の人生の旅 かって歩まれる姿がとても心に響 自分はこれ以上無 あきらめず 目的に向 そういう

すからイエス様との強い絆こそが み旨を果たしていく決心です。で 神様との関係、即ち神様を愛して 結果であれ、どんな迫害であれ、 にとって力になりました。どんな 結ばれていたのでそれがイエス様 されたのです。神様との強い絆に 自分の目的を果たすことを使命と 圧迫、迫害、 進します。イエス様は人々からの 皆さんのことを心に収めながら前 うに、私たちも任せられた信徒の などを気にしないで

ことによって与えられる、許すこ ために自分自身をささげることで 事にも完全に神さまの国の発展の シスコの言葉を借りると「与える とによって許される、死ぬことに けてくれます。アシジの聖フラン 私たちを正しい道に進むように助 よって永遠の命を得られる」。何

がいれば、全く

めに尽くす方々

懸命人々のた

でしょう。一生 なっておわかり

ちの方がよっぽど悪い影響を与え らと言って決めないでいるとそっ 当然な話です。反対する人々が生 ならリーダーが早めに決めるのは りません。みんなに関係する問題 る可能性が高いのです。 じるのは仕方がありません。だか もリーダーとして決めなければな が、そういう問題が生じたとして すことです。 周りが混乱するので必ず決断を下 とです。あやふやな立場をとると 分は賛成か反対かはっきり示すこ ははっきり決断することです。 決断に賛成しないかもしれません リーダーシップの二番目の特徴 みんながリーダー 自 Ò

ンですが、今の世代と家庭ではど Journey" という英語のバージョ 那覇教区の子供たちのサマーキャ た。 う行けばよいかについて触れまし るいは英語で別の言葉で Hero's をしたら喜ぶだろうかと迷いま 供達には家族についてどういう話 るように頼まれました。ありがた から、家庭というテーマで講話す ました。担当者のナビーン神父様 ンプがミッションビーチで行われ した。結局リーダーシップ、あ いことなのですが、今の世代の子 今年の七月三十日と八月六日に その内容は、 自分の家族の悪

で、 神様からの恵みとして受け取り です。数多くの反対者があるかも きを探し求めながら前進すること とるのではなく、神様のみ旨、 いところばかり見るのではなく とっていくのがキリスト者一人一 しれないけれども、 神様が喜ばれるような行動を 社会の影響にのっ あきらめない

のでその道を歩みましょう、と訴

人への呼びかけです。こういう道

こそ人々の救いと癒しになります

えました。

範です。私たちのリーダーです。 幸いです。 界の隅々まで影響を与えられたら 使命をはっきり理解して、 まらないでしょう。自分たちの じてリーダーの使命に応えてい ると約束されているのでそれを信 Hero's Journey に出られた方で し、 選ばなければいつになっても始 まり信仰、 hį ばなりません。那覇教区の皆さ 教育を与え、 んで歩むように呼ばれている 洗礼の時からそういう道を選 私はいつもあなたとともにい 私たちが今このような道、 親は自分の子供たちに霊的な 前進して日本だけではなく世 イエス様が私たちの模 希望と愛、平和の道を 支え、導かなけれ 認識 つ か

るようにお互いのためにお祈りし にも身体的にも疲れていると思いこのパンデミックの時、精神的 素晴らしいリーダーになって生き リストの模範的な生き方に倣 ますが、私たちの救い主であるキ M

2022年8月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2022年8月2日(火) 10:00~12:00 会議前に聖体賛美式をサニー神父が主式して行う。

- 1. 報告及び連絡事項: 始めの祈りはウェイン司教、司会はマキシム神父が担当。
- ・始めにシノドスのための祈りが配られ、ウェイン司教とともに祈りを捧げた。祈りの後、ウェイン司教から、休暇でベトナム帰国中にお父様が帰天を見送ったフランシス神父に対するお悔やみの言葉が述べられた。これに応えてフランシス神父の報告と謝意が伝えられ、次回9月の司祭会議の前に、司祭団で追悼ミサを捧げてはどうかとの提案が司教からなされた。異議なく、9時半から追悼ミサを行うことが了承された。
- ・前回(7月会議)の議事録の確認を新田が行い、承認された。
- ・ウェイン司教より2022年第1回の臨時司教会議の報告と解説が行われた。
- ・サマーキャンプについて、担当のナビーン神父から7月31日に行われた小学生の部の報告が行なわれ、たくさんの方々の協力を得て、盛会のうちにキャンプを終えることができたことへの感謝が述べられた。引き続き中高生の部への協力要請も行なわれた。
- ・宣教師再来島75周年記念ミサについて、津波古事務局長から説明が行なわれた。第二次世界大戦後の沖縄に、最初にカプチン会の宣教師たちが来たのが1947年9月5日であり、今年は再来島75周年に当たることから、前日4日、日曜日に安里教会でミサを捧げて、沖縄における戦後の宣教再開を記念し、感謝を捧げるとともに、教区のこれからの歩みを見つめ考える機会にできればとの意向が提言され、了承された。ウェイン司教、安里主任司祭のフランシス神父、典礼担当のブイ神父が協議して準備を進めていく。押川名誉司教が、この節目の年に間に合うよう宣教師たちの手紙を翻訳して準備してきた本も当日に間に合わせて出版することや、ミサ後に分かち合いの機会を作ってはどうか等、様々な提案もあり、ウェイン司教と担当者とで詰めて、実施されることとなった。

2. 審議事項

- ・ウェイン司教からコロナの感染状況について提言が行なわれた。感染拡大に留意しながら、教会活動を継続して行く ことや、信徒たちと話し合って、聖歌も歌えるようにして良いことが述べられた。但し、手指の消毒やマスクの着用 は徹底して、沖縄県の医療逼迫等の状況も踏まえ、活動は慎重に、お互いに気をつけて行なうよう重ねて要請された。
- ・8月の司教予定について、マーシーさんから報告と調整が行われた。8/6は中高生のサマーキャンプのミサを主式。 8/14、首里教会公式訪問。8/21、与那原教会の公式訪問。8/30、ズーム会議。
- ・待降節第一主日から導入される新しいミサの式次第について、ウェイン司教から司祭たちへ、事前によく読み合わせて準備をするよう提言が行なわれた。9月の司祭会議の後、午後から研修の時間を取って、詳しく説明されることが報告された。
- ・シノドスの過程で日本の教会の回答書が出された。これを用いて小教区での読み合わせや掲示等で問題意識を共有していく機会を提供し、小教区での信仰の歩みに活かすよう提言された。
- その他
- ・ODNの新しいシスターが派遣され、開南教会に籍をおいて日本語学校へ通うことが報告された。
- ・次回拡大司祭・助祭会議は2022年9月6日(火) 午前9時半からのフランシス神父のお父様の追悼ミサの後に続いて行なわれ、昼食を挟んで、午後2時から新しいミサ式次第の読み合わせと研修が、安里教区センターで行なわれることが決められた。

2022年8月15日 承認: ウェイン・フランシス・バーント司教 記録: 新田 選



カトリック与那

原教会との関

ありました。 会の聖堂や聖クララ修道院の補修 ター比嘉から電話があり・・・教 工事を進めてほしい旨のご依頼が **|話を終えて二、三年後に、シス** は をしたのがきっかけでした。 教会での EM についての EM技術の活用が条

サッシです。鉄部は断面 殆ど使用されていないスチール 特に聖堂の改修工事について 特殊な窓面の構造で、 現在は

デザイン上スッキリして ルミサッシ等への改修も **久性に難があります。ア** やすく塩害も受け易く耐 軽快でステンドグラスの が小さく、 でしょうが、鉄は錆び 設計に採用された 見た目は細く

建

築士と教会

与那原教会

知 念

信正

軸

をする箇所もありました。 えするにも同一材質のものは手に を活用しました。 |装及びシーリング材等は 経年劣化が進んでおり、取り替 そしてステンドグラスそのもの 適当な色ガラス等で処理 鉄部の E M

莫大です。

アルミに取り替えに要する費用は

士仲間の見立てです。

また全部を

もよろしくない、との地域の建築 は悪く、ステンドグラスとの調和 考えられますが、アルミは見た目

> のこと。現在、 き棒で突き、

比較にならない程丁寧に扱われて 期のコンクリート技術について いたように思います。 ◆コンクリートの劣化につい 与那原教会が建設された戦後初 特にその施工技術は現在とは って

関連施設のメンテナンスを担当し 容器で運び、 と、特にコンクリート打設のやり 方が全然違うのです。 ておられる)にお話をお聞きする 当時を知る新垣さん(教会及び 型枠に流し込み、 バケツ状の 突

> シックハウス対策を施しました。 等に EM 資材を活用し、いわゆる すべての改修工事の接着剤及び塗料 ンクリートを打設しました。その他 理を行なって、EMを活用したコ を斫り工事を行い、 から五○センチ下まで四隅の鉄 鉄筋の EM 処 筋

◆ラサール神父様

その当時、 ら」で始まるラサール神父様は、 「ぐすーよー ちゅー 与那原教会の主任司祭 でした。最初の うがなび

あり、 いてもご理解が とさばけた方で でしたが、意外 つきにくい感じ した。 EMにつ 聖堂の床

げて確認しているのですが、聖堂 は大違い。締め固め方が全然違う きてポンプ車で型枠に流し込むと ど劣化は見られないですね。 のです。毎週与るミサの度に見上 るコンクリートミキサーで運んで の天井にある細長い梁にはほとん 足等で踏み固めたと 普通に行われてい

◆劣化部分について

のひび割れ補修については、

庇下

ある川の浄化のため、

EM 散布の

聖堂に通じる廊下の一本の柱 化個所の調査及び補修の実 と言えます。 材を活用し、ニスの臭いの低減を の表面仕上げのニスにはEM資 換えました。またその木製長椅子 た長椅子を含め、全て新しく取り きでしたが撤去し、畳の上にあっ だきました。ホールの一部は畳敷 することについても承認していた には、接着剤に EM 資材を活用 材を長尺塩ビシートに張替える際 ますが、 かりました。 全て EM が取り持っている コロナ禍で中断して 私と教会の関わり 与那原に

> り行って頂きました。大変あり の供養をラサール神父様に一切 とになり、その際にお祈りと祖先 にあった祖父母の代からの 頂いたことに大変感激しました。 ク教会は否定せず、むしろ敬って 祖先崇拝や風習について、カトリッ たいことでした。沖縄の伝統的 トーメー」を自宅の仏壇へ移すこ 活動も行ってい 私は次男ですが、 ます 故あって実 トー な が 執

▼ウェイン神父様 (現司教様

こわもてでとっ ころ神父様は、

年四月五日の復活祭に受洗のお恵素晴らしい経験でした。二〇一五 ウェイン神父様が担当してくださ みを受けました。 いました。その一年間はほんとに た。受洗前の一年間の勉強会は 洗礼を希望し、 勉強を始めまし

の出会いが、 度もありました。そこに参加した信 のバザーに夫婦で参加する機会が何 や修道院の補修工事の関係で、 に残っており感謝しています。 いたものとして、 きざまをキリスト教の観点から についての記事は、 た、一〇年ほど前の「カトリック んお世話になりました。 につながりました。皆様にもたいへ 徒の皆さんや神父様、シスター方と シスター比嘉のご提供を受け 以前、私が関わった与那原教会 連載の「高山右近の生 後の私たち夫婦の受洗 今でも大変印 戦国武将の生 涯

2022年すべてのいのちを守るための月間

世界のキリスト教諸教派は、ともに 9 月 1 日からアシジの聖フランシスコの祝日である 10 月 4 日までを「被造物の季節」と設定し、 ともに暮らす家のために祈り、また守るよう呼びかけています。カトリック教会もこのエキュメニカルな活動に参加するよう教皇庁総 合人間開発省が毎年呼びかけを行っており、日本では「すべてのいのちを守るための月間」として取り組みが行われています。 わたしたちは「話せず、語れず、声が届かない」被造物や貧しい人々の叫びに耳を傾けるよう招かれています。 あなたが住む地域では、どんな声が聞こえますか?人々の圧力によって聞こえないよう押し潰されてしまっている声はありませんか? どうかこの期間に「わたしたち自身の中での調和、他者との調和、自然やいのちある他の被造物たちとの調和、そして神との調和といっ たさまざまなレベルで、エコロジカルな平衡を回復」(ラウダート・シ210) していくことができるよう祈り、身近で実行することが出 来る小さな取り組みを行って参りましょう。

感謝のうちに サマーキャンプ終了

だました七月三十日、八月六日。 の中で素晴らしい二日間となり をいただき、大勢の方々の祈り コロナ禍、天候、と皆が気にし ていたことが神様の特別な祝福)供達の明るい声が海辺にこ

ださった大勢の方々の熱意が くださったことも、今回のテー さんの期待と喜び、 のではないでしょうか。 マと共に、子供達の心に残った ことができたと思います。自分 大きな恵を一人ひとりに与える 優しいお話しや子供達への愛が 教区間の交流を深め、司教様や んなにも大勢の方々が関わって 達のサマーキャンプのためにこ マキシム神父様の心のこもった 参加した子供達、 まで、交流が少なかった小 たサマーキャンプでした。 関わってく 青少年の皆

教区皆様のご協力、司会等リー ドしてくださったヘルパーの皆 方のご参加、シスター方、小 司教様はじめ、十余名の神父 供達を暖かく見守っ

> さん、送迎に車を出し 方々、ビーチ管理の皆 てくださった大勢の 心両面からご協力くだ てくださった方々、

ました。 会の皆さまには、準備から片付 料理を作ってくださった女性の けまでたくさんのご協力を頂き てくださいました。 さった方々、大勢の皆様が関わっ サ なにより暑い台所で美味しい マーキャンプが有意義に終 感謝!感謝!です。

> 者としてお礼申し上げます。 でなお一層幸せに成長し、神様 さらに豊かになり、 う祈念し、サマーキャンプ担当 への深い信仰へと繋がりますよ さんが家庭の愛、 がとうございました。 これを機に教区の取り組みが 皆様の愛の中 青少年の皆

カトリック那覇教区 青少年担当司祭ナビーン神父

30-330 システー 着がえ 330-430 ごミサ 430-5:00 超別れの前に 解散 数 あなたの父母を数えばる

了できましたこと、神に感謝!











皆様に感謝!

①お盆慰霊祭・ 死者のため

た亡くなった家族、 きました。お盆に帰って来られ 方が来られミサに与ることがで 行うことになりました。 旧 年からマイケル神父様の提案で、 込めて焼香しました。また、今 りをささげ、 例年通りお盆慰霊祭が行われま 夜七時からのミサには、多くの た遺影を飾り、 した。それぞれが持って来られ 盆に「死者のためのミサ」を 去る八月七日 (日) (なかび)の八月十一日(木) ひとりひとり心を 故人のための祈 親族、友人 のミサ後、 旧盆中

> どうぞ天からあたたかく見守っ ていてくださいと祈りました。 たちに思いを寄せ、これからも

②シノドスの勉強会が 始まりました

区 できる貴重な機会をとおして、教 徒のみなさまの意見を知ることの えていく予定です。那覇教区の信 護小教区の意見も織り交ぜなが 数回に分けて紹介し、 られたさまざまな意見を、 始まりました。那覇教区に寄せ 父様によるシノドスの勉強会が 教区シノドス担当のマイケル神 去る八月十四日(日)のミサ後、 改善できるところなどを考 小教区がともに歩み、 していけるよう祈りながら、 私たち名 今後 発展

学び、考えていきたいと思

渡慶次純栄通信員

るかのように静かに燃え続けて るで私たちの願いを神様に届け とり折りヅルを火のなかに入れ アの祈り」を唱えながら一人び の案で燃やすこととなった。 -和の祈りをささげた。炎はま 中庭の前で「アヴェ・マリ

いた。

呼び、 とを心にとどめた貴重な聖母被 これからもマリア様とともに共 はウクライナのみならず世界の やバッシングが横行している悲 なく平和の祈りを続けていくこ 同体一致の中で、 ならず多くの国に殺戮が殺戮を 昇天の日でした。 しい現実。 -和を願うひとときでもあった。 現代の世界はウクライナの 人々の心の中にも憎しみ 今日の私たちの祈り 途切れること み

②子ども夏の集い

再びの集いを願いながら解散 義で楽しい時間を過した。最後 お祈り、ゲーム、おやつと有意 含め総勢二十一名が一堂に会し 加者十一名、保護者とサポーター は神父さまからの祝福を戴き たちの集まり」が開かれた。 夏休みの八月二十一日、 「子供

(伊志嶺節子)



母被昇天」祭日を祝う特別 教会にとっては大切な「聖 ①平和への祈り 宮古島教会 -ウクライナを通して-八月十五日、カトリック STOP WAR



な 日。

三月二十日から八月

ウクライナの平和を願い国 十五日までの約五カ月間、

杯になったこの日、 `続けた折りヅルが硝子箱 の青と黄色の折り紙で折

信徒

本を出版された。 八月一日付で冒頭のタイトルの

当教会所属の石川清司先生が

「診察室の窓から」

も記憶に新しい。 う『ラサール』でーびでーる 纂された愛に溢れた「ぐすーよ の主治医でもあった。 れたことを綴られたものである。 残ったことや、感じ考えてこら 年のキャリアを通して、 昨年帰天されたラサール神父 先生が医療に携わってきた長 先生が編 印象に

います。 考えたと、先生は結びに記して ここで一区切りを・・・」とも 折に触れて書きとめた文章

思います、と結んでおられます。 続く者たちの指標や刺激となっ マを見つけて行(生)きたいと のならば、 てくれることを期待して止みま しかし、 先生の歩んできた経験が後に さらにつなげるテー 時が与えられている

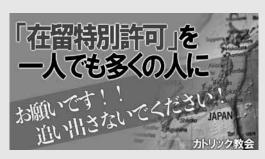
診察室の窓から

日本カトリック司教団からの呼びかけ

わたしたち日本カトリック司教団は、2021年12月の難民移住移動者に関する研修会で、日本で生まれ育った、在 留資格がなく強制送還の危機にさらされている外国ルーツの若者の証言を聞きました。働くことも、健康保険に入るこ ともできず、若くして道を閉ざされている子どもたちやその家族がいます。わたしたちは、このような子どもたちと家 族に「在留特別許可」が与えられるよう要請書を出すことを、今年 2022 年の定例司教総会で決定し、3 月 25 日付書 簡を古川禎久法務大臣に提出しました。日本の入管制度では、法務大臣の行政裁量で、非正規在留を合法化する「在留

特別許可」を出すことができます。わたしたちは、道を閉ざされてしまってい る兄弟姉妹たちに人道的な配慮を示すよう古川大臣に要請しました。日本の教 会の皆さん、また思いを同じくする皆さんに賛同の署名を呼びかけます。

要請文はカトリック中央協議会ホームページ (https://www.cbcj. catholic.jp/2022/05/23/24645/) で読むことができます。また、「弱



くて声も上げられない子ども の移住者たち」をテーマとす る 2017年「世界難民移住移 動者の日」教皇メッセージを お読みください。一致して兄 弟姉妹のいのちと尊厳を守る ために、ともに祈りと行動を 呼びかけたいと思います。

日本カトリック司教団

計

報



NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション **クララ**

TEL&FAX:098-937-5001 住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日~金曜日(申込、相談など)

•営業時間 8:30~17:30

営業日 24時間365日(緊急対応含む)

安里教会主任司祭:フランシス神父ご尊父) ソェトナムにて帰天 享年七十五歳 アンジェリーナ 渡慶次 ヨシ 10111年七月七日 |0|||年八月七日帰天 |0|||年八月||十||日帰天 |0|||年八月七日帰天 石垣信和 高田 和泰 様 享年八十九歳 享年七十六歳 享年九-



私たちは故人とご遺族の意向 を最優先に考えます。何でもご

那覇市首里鳥堀町4-57-3 TEL&FAX:098-885-8205 http://w1.nirai.ne.jp/yasurai E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

相談下さい。

画

~ご遺族の心をもって奉仕する~

そうてんしゃ

社

- * 創業30数余年・・・。
- *皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるための お手伝いをさせていただいております。
- *ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。 「ゆうなの会」会員募集中です。

てんごく ☎098-**853-105**9

高茂

(実務担当) 比嘉